

2024
MIYAGI
RECRUIT
GUIDE

宮城県職員ガイド



宮城県職員募集2024

農業

業務紹介

◆ 概要

農産物の生産技術や農業経営の普及指導など、地域の農業振興に関する様々な支援や品種開発、栽培技術等の試験研究を行います。

◆ 勤務先

本庁各課：農業振興課、みやぎ米推進課、食産業振興課など
地方機関：農業改良普及センター、古川農業試験場、
病害虫防除所、農業・園芸総合研究所、
農業大学校など

自己紹介

- ◆ 出身 : 宮城県仙台市
- ◆ 入庁までの経歴 : H25.3 県内大学卒業
H25.4 入庁

入庁後の異動歴（現在入庁12年目）

- H25.4～ **登米農業改良普及センター地域農業班**
 - ・若手農業者（4HC）の活動支援
 - ・新規就農者の支援
 - ・土地利用型作物（水稲、麦、大豆）の技術指導
- H28.4～ **古川農業試験場作物育種部**
水稲新品種の育成
- R4.4～ **農政部みやぎ米推進課生産販売班**
 - 大豆・麦類の生産振興
 - 補助事業の実施



志望動機

◆ なぜ公務員？

学生時代の専攻を生かせる仕事をしたかった

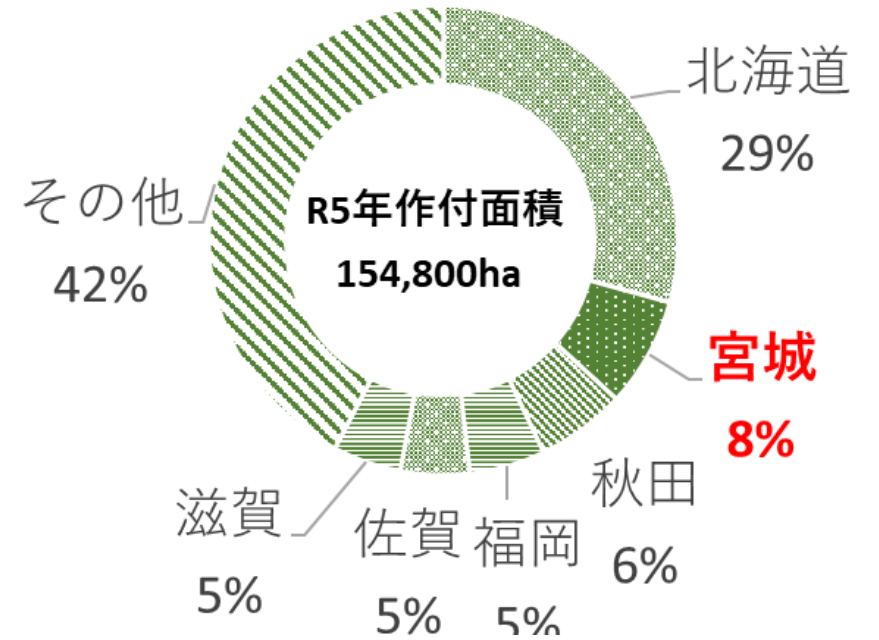
◆ なぜ宮城県庁？

出身地であり、農業の技術指導、試験研究、農業行政と幅広い仕事を経験できるのは宮城県庁だけ

現在の担当業務の紹介

◆ その前に・・・宮城は大豆の主産地です

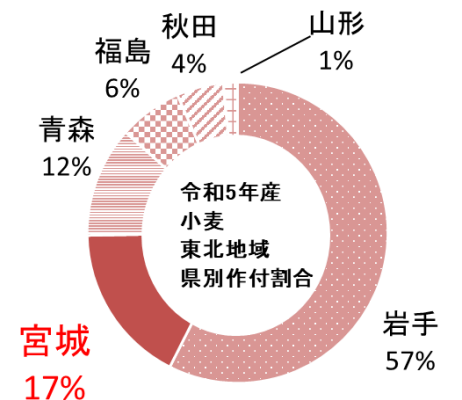
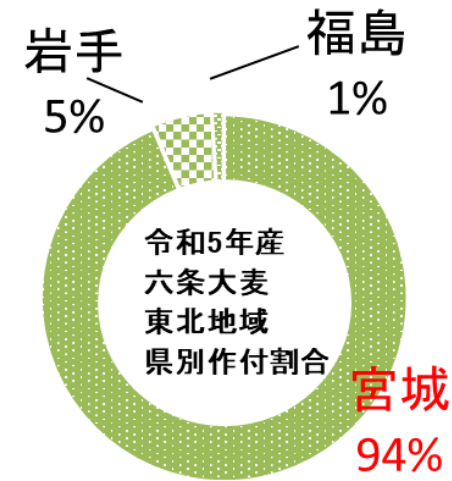
- ・宮城県における令和5年の大豆作付面積は11,700haで、北海道に次いで全国第2位。
- ・宮城県の大豆栽培は97%が水田で行われている。水田を効率的に活用していろいろな作物を作る仕組みを転作といい、宮城県では麦と組み合わせた1年2作体系や稲・麦・大豆による2年3作体系の転作が行われている。



現在の担当業務の紹介

◆ 麦類の産地でもあります

- ・日本では、小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦の4麦を生産している。
- ・東北地域では、小麦と六条大麦の作付けが多く、二条大麦、はだか麦の作付けは少ない。
- ・宮城県における令和5年産の麦類作付面積は、小麦が1,160ha、六条大麦が1,450ha。
- ・六条大麦の作付け面積は全国第7位、東北地域では作付け面積の94%を占める大麦主産県。



現在の担当業務の紹介

みやぎの未来を、クリエイト。

◆ 大豆・麦類の生産振興(つづき)

- 大豆研修会(7月)、
大豆・麦類研修会(3月)の開催。
- 実需者訪問の実施、意見交換。
R5年度は愛知方面の納豆メーカー、味噌醤油メーカー
東京の小麦製粉メーカー、山梨の精麦メーカーを訪問し意見交換を実施。



現在の担当業務の紹介

◆ 大豆・麦類の補助事業の実施支援

農業者が機械を導入したりする際に、購入経費を補助する等の補助事業がある。補助事業を活用するための計画作成支援やその取りまとめを行う。



その他当班で扱う業務の紹介

みやぎの未来を、クリエイト。

◆ みやぎ米の生産・販売振興

「お米は食べわかる時代。だから、みやぎ米。」をキャッチフレーズに、それぞれ特長の違う4品種を中心にみやぎ米をPRしている。

食卓シーン	和食ならではの繊細なあじわいを愉しむ食卓。	毎日のおいしいあわせをつなぐ食卓。	ゆったりと。贅沢な時間を味わう食卓。	手軽においしく。健康を無理なく叶える食卓。
銘柄	ササニシキ	ひとめぼれ	だて正夢	金のいぶき
特徴	<p>和食の風味を最大限に引き出す、やさしく上品な味わい。</p> <p>さらりと、口の中でほどけるおだやかな味わいで、お寿司や刺身、四季折々の旬の食材など、和食との相性が良い。</p>	<p>毎日の食卓を支える万能で、飽きないおいしさ。</p> <p>粘り、つや、うまみ、香りのトータルバランスが良く、どんな料理にも合う優等生。飽きない味で毎日の食卓に最適。</p>	<p>みやぎ米の夢をかなえた、これぞ天下をとる旨さ。</p> <p>噛みほどこ、一粒一粒がじゅわとあふれだすお米本来の甘みと旨味で、特別な日の贅沢な時間に、上品なもちもち食感。</p>	<p>宮城の風土が生んだ、輝玄米。手軽に炊けて、「金のおいしさ」。</p> <p>プチプチとした独特の食感で、かみしめる度に甘みが広がる。胚芽は通常の3倍大きく栄養が豊富。白米モードで炊飯ができるため、手軽に健康習慣を取り入れられる。</p>
	<p>← 食材との相性が抜群 (あっさりした味わい)</p>		<p>→ お米そのものを味わう (もちもちした食感)</p>	<p>健康機能の高い玄米食</p>

その他当班で扱う業務の紹介

【みやぎ米キャンペーン等の開催】



【イベントにおけるPR】



【公式HP・X（旧Twitter）による情報提供】



イベントなどの告知、「だて正夢」に関する情報、現地の「だて正夢」生育情報など、積極的な情報拡散。

宮城米マーケティング推進機構HPをご覧ください。



入庁前のイメージとのギャップ

◆ 入庁前のイメージ

大学3年生時にインターンシップで仙台農業改良普及センターに行っていたので、大まかなイメージはできていた。

◆ 入庁してみたら・・・

実際に仕事をしてみるとインターンシップで経験したことはほんの一部であることがわかった。仕事の範囲はとても広い。

仕事をする上で心がけていること

- ◆ 限られた時間の中で、先の見通しを立てて効率よく仕事をする。

新しいこと（仕事）に取り組む場面では、先が見えないことが不安につながります。他の人に聞く、過去の経験を生かすなどしてなるべく先の見通しを立て、効率的に仕事ができるように心がけています。

また、隙間時間で考える、朝の時間を有効に使うなどを心がけています。

印象に残っている業務

- 登米農業改良普及センター時代に若手農業者の組織（登米市4Hクラブ※）を担当し、技術交流会や視察研修を行ったこと。
- 今でも交流があり、お互いに成長できるように頑張りたいという思い。

4Hクラブとは：農村青少年が相互に連絡調整を密にし、次代の農業を担うにふさわしい農業技術の知識と技能の習得交換を図り、研修・講習及び集団的自主活動を通じ、近代農業の確立に寄与する組織です。地域単位のクラブから、市町村、地区（農業改良普及センター単位）、県、全国へと広がり、会員がそれぞれの目的を持って活動しています。

[4Hクラブ綱領]

- 私達は実践を通じて自らを磨くとともに、互いに力を合わせて、より良い農村、より良い日本を創るため四つの信条をかかげます。
- 私達は、農業の改良と生活の改善に役立つ腕（Hands）をみがきます。
- 私達は科学的に物を考えることのできる頭（Head）の訓練をします。
- 私達は誠実で友情に富む心（Heart）をつちかいます。
- 私達は楽しく暮らし、元気で働くための健康（Health）を増進します。

仕事のやりがい

◆ いろいろな関係機関（※）の方と一緒に仕事をするので、自らの見識を深めることができ、それを別な場面で活かすことができること。

※農協、市町村、農政局、大学、農業振興公社、民間企業、他県（行政機関、試験研究機関）、農研機構、農業共済組合 など

職場の雰囲気

- ◆ 農業関係の学部を出た職員が多いので、話しやすく相談しやすい。
- ◆ 行政職の方は、行政のプロとして各種事業の実施を適切にフォローしていただける。

宮城県職員の魅力

- ◆ 行政、普及、研究と幅広い仕事を行える。
- ◆ 県内各地域の農業振興に携わることができる。
- ◆ 農業の知識・技術を持った公務員として
関係機関から信頼していただける。
⇒その信頼に応える責任もある。

私の公務員試験対策

- ◆ 大学の授業を大切にする。
- ◆ 専門試験の内容は市販されている参考書や大学の就職担当部署にある過去問を解いた。
- ◆ 一般教養試験は市販されている参考書で過去問を解いた。また大学で開催された公務員試験対策セミナーに参加した。
- ◆ 面接試験は大学の就職担当部署が開催した面接試験対策に参加した。

先輩職員からのメッセージ

- ◆ 農業に興味を持っている方なら、明るく前向きに仕事ができる環境があります。
ご一緒に働けることを楽しみにしています！